

駅史の広場に浮かぶ まちのペランダ 1/2

貴重な歴史資源を大切に継承しながら、新たに加わる都市建造物を調和と新鮮さを兼ね備えつつ融合させることで、次の100年も、まちと住民に活力を与え続けられる力をもった駅風景を創造したいと考えます。
新しい諏訪・森駅舎及び駅前広場の具体的な姿として、3つの大きな提案をします。

1. 「まちのペランダ」 ホームを、新たにまちに加わる気持ちの良いスポット ― 見晴らし台として整備します。
2. 「駅史の広場」 地上レベルは、駅舎内外を問わず全体を連続的な広場ととらえ、一体的に整備します。新旧のイメージが融合するこの広場を、象徴的かつ実用的なまちのセンターとして機能させます。
3. 「中心軸」の強調 西側駅前線から東側商店街につながる動線を、貴重なまちのストラクチャーとしてとらえ、より明確な軸線として決定づけます。



軽快に浮かぶ、「まちのペランダ」。まちに加わる新しい名所。

旧駅舎や駅前広場を見下ろす持ちのよい展望スポットと、特別な開放感を利用者とまちに提供する折り上げ屋根。

やさしく横たわる圧迫感の少ない高架ホーム。旧駅舎と、素材感や雰囲気とを共有します。

駅前広場・自由通路・コンコースは、まちの玄関としてふさわしいまとまったスケール感を感じられるよう、旧駅舎をイメージの源泉として一体的に整備します。

旧駅舎から見た自由通路と「旧駅舎アネックス」。活用しやすい施設提案と配置計画により、旧駅舎を中心とした多様な駅前活動・駅前交流を促します。

まちの「中心軸」を決定づける、シンボリックなホーム折り上げ屋根と自由通路の連続感。折り上げ屋根は、長大な駅舎のボリュームを旧駅舎のスケールに調和させる役割も果たします。

伸びやかに植栽帯が連続する駅前線。クロマツの街路樹をのびのびと育てます。灌木で歩道を閉じないため、イベントにも柔軟に対応できます。

拡張された歩行空間にほどよく居場所が配置された駅前空間。旧駅舎を中心に、わたり、たまり、つどう、広場としての基本的役割をしっかりと果たします。



1. 「まちのペランダ」

高架ホームを、まちに加わる新しいファシリティとして積極的に捉え、そのポテンシャルを最大化します。
つまり高さを活かし、まちを見晴らす気持ちのよい場所・ビューポイントとして、開放的にデザインします。

現代的な軽快さを確保しながら、どこか洋館のペランダの雰囲気にもつながるイメージを目指します。

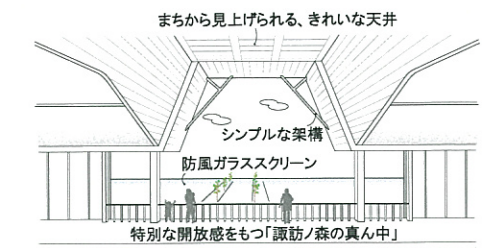
- ホームをひらく
・ホームを高い外壁で覆い隠さず、上屋のシルエットを表わして、まちへの圧迫感を感じさせない軽快なイメージを実現します。
- ・駅前広場や駅前線を見渡せる部分は、外壁に高い透明性を持たせ、開放的な展望スポットとします。
- ・展望スポットは、ガラス面のみでなく、手摺・日除けなどを設けてスケールや陰影を整え、洋館イメージにもつながる親しみやすい雰囲気を作成します。
- ・自由通路直上部分はシンボリックな折り上げ屋根とし、一部ガラスを張らず、特別に高い開放性を持たせることを提案します。
- このことにより、ホームの開放性と駅舎東西の連続性を、強く印象付けることができます。
- ・一般部分のホーム外壁は、採光を考慮して半透明ガラス張りを基本としますが、近隣状況などに応じ、目隠しパネルに代替できるシステムとします。

■風雨をしのぐ開放性

- ・折り上げ屋根部分に限定して壁面をオープンとすることにより、ホームの開放性を効率よく表現しつつ風雨時の心配を局所化しています。
- ・折り上げ屋根部分も、人の背の範囲(床面から2.2m程度)には防風のためガラススクリーンを設置します。また、線路上部にも屋根がかかっているため、雨天時の心配はさらに減ぜられます。

■上屋断面

- ・上屋の鉄骨架構は、各所から見上げられるホーム屋根をきれいにさせるよう、シンプルかつ堅牢に構成します。
- ・電気配線ラックスペースを天井内のメンテナンスしやすい位置に確保し、必要に応じて電源を取り出せる天井システムとします。



2. 「駅史の広場」

自由通路、コンコース、旧駅舎を含む駅前広場 ― つまり地上レベルはすべて、全体を広場と捉えて連続的にデザインします。

旧駅舎を中心に駅前活動・駅前交流の醸成を図る計画とします。

旧駅舎やまちのイメージを強化する色硝子(ステンドグラスやカラーガラス)を各所に用い、移ろう色光を効果的に採り入れた表情豊かな場所とします。

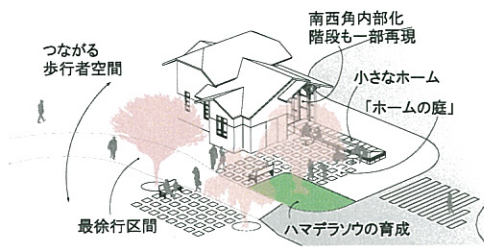
活きた遺産・旧駅舎を抱える「駅史の広場」は、まちのアイデンティティを表現し、かつ、住民が憩い活用する、象徴的で実用的なまちの中心として機能します。

■つながる歩行者空間

- ・旧駅舎の北側を走る一方通行道路は車両交通量が限定的と見込めることから、旧駅舎横から自由通路前にかけて最徐行区間に設定し、歩車共存道路のように計画することを提案します。
- このことで、車道により分断される歩行者空間を広く連続させ、「わたり」、「たまる」広場本来の機能を大きく向上させます。
- ・歩道と車道の仕上を近似させるなど、旧駅舎・自由通路ゾーンと、向かい側の駅前線歩道が連続するようにデザインします。

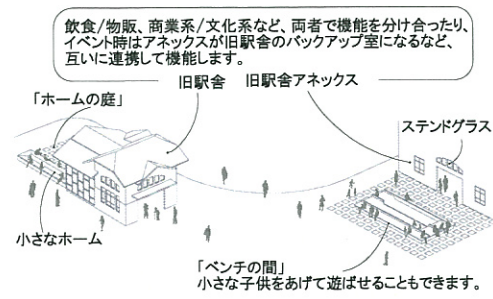
■旧駅舎と「ホームの庭」

- ・旧駅舎は、カフェをはじめ多様な活用法に対応できるよう、南西部分も屋内化し、内部スペースに余裕を持たせることを提案します。
- ・旧上り線ホームの石積を活用し、旧駅舎と連続して小さなホームを再現します。腰掛などとして利用できるほか、イベント時にはステージの一部としても機能します。
- ・あわせて、人だまりや旧駅舎のテラス席などとして機能する多目的な屋外スペース、「ホームの庭」を設けます。車道をまたいだ連続性を演出し、旧駅舎付近への人の流れを誘引します。
- ・「ホームの庭」に隣接して日当たりの良い植え込みを設け、ハマデラソウ他を住民ボランティアで毎年育成することを提案します。「ホームの庭」が親しまれるきっかけになります。



■「旧駅舎アネックス」と「ベンチの間」

- ・自由通路北側に多機能スペース「旧駅舎アネックス」を設置します。旧駅舎とアネックスは互いに連携し、駅前コミュニティに貢献します。スペースが2つあることにより、機能分担・補充が可能となり、多彩な活用が望めます。
- ・自由通路に、人だまりのスペースとして部屋のスケールを持つ大きな腰掛「ベンチの間」を設けます。
- アネックスの活用法によっては、その店外席などとしても利用できます。
- ・アネックスの開口部は旧駅舎とデザインをあわせ、同じ役割(駅前活動・駅前交流への寄与)を持つ施設であることを表現します。



■自由通路とコンコース

- ・コンコース・自由通路は、外面のランマ部分や足元にカラーガラス(カラーフィルム入り合わせガラス)をはめ、朝夕の陽光を印象的な色光として採り入れます。
- ・コンコース・自由通路の天井は、下がり壁を一定間隔で設置した、くし形天井とします。このことで色光の映りこみ効果を増幅させるとともに、煩雑になりがちな吊り下げサイン類を内装と一体的に計画します。

